

## 【特別講演 2】

座長 高田 信二郎 先生

失語症者を支援するために

ー失語症状と失語症者とのコミュニケーションのとり方ー

県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科  
教授 吉畑 博代 先生

コミュニケーションは我々の生活の基盤となるものであるが、ある日突然起こる脳血管障害によって、コミュニケーションが困難になる場合がある。それが失語症である。失語症になると、「聞く、話す、読む、書く」の4側面の機能が多かれ少なかれ低下し、コミュニケーションが難しくなる。さらに、例えば、周囲の会話を理解することができないため、阻害された気持ちになるなどの心理的な問題も生じる。

しかし、コミュニケーションは、相手と役割を交代しながら、相互にやりとりを行うものであるため、周囲の話しかけ方によって、失語症者から引き出せる内容や量は変化する。最近では、失語症者のコミュニケーション範囲や機会の拡大のために、地域住民を対象とした「会話パートナー養成講座」などの取り組みが増えている。

本講演では、言語聴覚士の立場から、失語症状や失語症者とのコミュニケーションのとり方のコツを、具体例を交えながら紹介する。